

幼稚園教育學講義

— 神戸における講演 —

文學博士 谷 本 富

第五章 兒童心理學研究指針

水を治むるものは水の性を知る、人を治むるものは人の性を知らねばならぬ、幼兒教育をなすものは幼兒の性を知らねばならぬ。そこで兒童心理學の中に特に幼兒心理學の研究が必要である。

抑々兒童心理の事は既にルソーやベスタロッチによつて注意せられたが、最も其必要を説いたのがフレーベルである。然しこの時代には兒童心理學といふ一科はなかつた、兒童心理學は英國のダークン獨逸のプライエル佛國のペレー等によつて新らしく研究せられた。大きく見積つて三十四年來のものである。而してこの研究の發達したの

は米國である。何故かといふに私の想像する所によると米國の教師は大概女子であつた爲で、女子の天性が子供に縁深きを以てであらう、斯くて其發達の案内者は主として次に掲げる六七人である。

一 Barnes は幼稚園に始めて發問法を應用した
二 Shim この婦人は己が親族の子供について研究した。

三 Russell は凡ての人に就て研究された。

四 Chamberlain である。氏は Child といふ書を著したが其内容は野蠻人のする事と普通人のする事とを比較研究した所もあつて即ち人類學上より見たのである。

五 Baldwin は社會學上より兒童を見た。

六 S. Hall は最後に此等をまとめて統一した。

此等の人々の先導によつて今日は實際各方面の調査が山程あるやうになつた様である。日本でも兒童に關した書は多くあるが楢崎氏の『兒童心理學』はよろしく Drummond 氏の書は近頃翻譯は成つたが左程に思はない、寧ろ同夫人は近著の『The Dawn of mind』と題する小冊子の方が好い様だ。ところで茲に一つ Earl Barnes の新著『The Psychology of Child and Youth』即ち兒童并に青年の心理と題する書物が一九一四年に紐育で出來た。それは右申す有名なる兒童心理學の大家が三十回講義要領をかいたものである。一回講義を一章とし三十章から出來てゐる、一回は一頁半位で、毎年の終りに四五冊の參考書を擧げてあり。又一枚毎に一枚の白紙を入れて書入れに便する様にしてある。内容は流石に老練と博學で充たされて居る。

次に、其内容の目次を一瞥すると、それは普通心理學者の排列と稍々趣を異にして居る。

序文は長たらしいものでなく、僅々十四行で至つて簡單で要領を得て居る。

一 兒童の遺傳し得るものは何か。

二 初期の幼兒生活。

三 身體發達の理法。

四 兒童期に於ける感情と情緒。

自分は或る意味で夙にモンテッソーリ女史に同意出來ぬ點がある、即ち五官や筋肉の發達には注意したが、感情情緒に重きを置かぬ點である。是れは遙に違つて居る。

五 感官の發達。

五官を後にし、感情情緒を先にせるは最もよろしい。

六 兒童は如何に考ふるか。

子供と大人とは考へ方が違ふ。

七 身體上並に精神上缺陷ある子供。

普通心理學ではこの項は最後の方に擧げるが先にしたのはよろしい。

八 言語の發育。

九 心象並に想像。

一〇 横倣と暗示。

一一 習慣と本能。

一二 記憶。

一三 人格の發育。

一四 兒童時間の觀念。

一五 法の觀念。

一六 迷信。

一七 推理。

一八 社會的理解。

一九 首領性。

子供は餓鬼大將や、お山の大將になる位でなければいけない。これが、やがて群衆心理となるのである。子供を研究するには、先づ群衆心理

から研究しなければならない。勞働者などで同

盟罷工の發頭と成る位の方は、子供の時から首領性がある。

二〇 道德性の發達。

二一 兒童期に於ける犯罪的傾向。

二二 責罰に對する兒童の態度。

二三 褒賞。

二四 審美性の發達。

二五 兒童に於ける宗教的發達。

二六 兒童期の遊戯。

二七 仕事に對する兒童の態度。

二八 財産に對する兒童の態度。

二九 政治的生活に對する兒童の態度。

三〇 性的興味。

昔は、男女七才にして性的興味が起るといはれるが、最近二才にして既に性的興味が萌すといふ、否精神分析學から言へばまだそれよりも早い。

以上三十章中にも自ら段落あり、即ち

第一章より第七章まで 心身の根柢。

八——一二 心の成長。

一三——一七 人格の發達。

一八——一九 社會性。

二〇——二五 高尚なる情操の發達。

二六——二九 公的生活の發達。

三〇 性的生活。

尙ほ Barnes 氏は *Studies in Education* といふ

大なる書物を作つた、これは各方面で材料を集めた四五百頁の書で二冊ある。但し未着未見。

緒、第一回の講義に於て如何に凡ての事を網羅して居るかといふ事がわかる、今、こゝに其内容を示す。——一例として。

第一講 兒童の遺傳し得るものは何か。

第一節 優生學研究の必要。

「優生學(ユトゼニックス)は人種の天稟の諸性質を改善するに效ある一切の影響を取扱ふ科學である」——ゴルトン

家庭學校並に社會一般は、皆均しく善く生れたる兒童を以て其始とすることに興味を有して居る。蓋し、由つて以つて將來に對しては最善の結果に到達し、尙且つ不適者を養育するの負擔を免がれんとしてである。フランシスゴルトンは千九百四年にユトゼニックスなる語を作出した。而して倫敦大學にユトゼニックスの一講座を建設せしが、それは目下教授カール・ヒアルソンが擔當する。

第二節 遺傳の諸學理。

ダーヅキンは、各個體の諸經驗は機制を調變し、該機制は又自ら再生するの傾ありと云ひ、ワイズマンは、萌芽成形元は一代より次代に移り行くものにして、此萌芽成形元を左右するの變化のみ獨り遺傳するといふ。メンデルは、雜種培養に於て優良の諸性質は子孫の三分の一の中に持續するといふ。知らず人間に於ける優良の諸性質とは何か。

第三節 遺傳すべしと知られたる條件

白痴狂疾並に癩癩は遺傳する。盲と啞とは往々

家族中に引續き現はれることがある、梅毒は子孫に傳はる。麻疹は遺傳しない。但し其効果は子孫に移される。亞爾簡兒は未定であつてカールピアルソン教授とサー・グイクトル・ホルスレーと論争あり。結核は遺傳せず而もその發達に都合好き條件は遺傳する。

第四節 世界の出生率。

一團體を持続せんとせば、平均各家族に四人の子あるを必要とする。米國の人口統計は信賴するに足らない、而かも米國生れの兩親は免角自ら再生しやうとしない様である。英國の生産率人口一千毎に

一八七六年	三六・三
一九〇五年	二七・二
一九〇六年	二七・一
一九〇七年	二六・三
一九〇八年	二七・五
一九〇九年	二五・六

一九一〇年 二八・八

三十年に出生率は三分の一を減じた。此の減却は富裕の知識階級の家族に最も急速である。佛國に於ては出生率は實際同様にして變動を見ない。獨逸には低降が英國より二十年程遅く初まつたが而かも引續き愈々甚だしく成りつゝある。十年間に人口一千毎に、

ミュンヘン 三一・五より二一・九

ドレスデン 三一・五より二〇・二

伯林の二大區では、死亡率より生産率の劣ること一三・八なる奇顯象がある。生産率は加持力教、猶太教徒、聖公會信教並に最下層の労働者には最も好況を持続して居る。

第五節 立法完成せられたるものと沮格せられたるものと。

- 一 婚姻以前に醫師の検査を要する法律がある、(インデアナ並にウインスコニン)
- 二 性的墮落者を虚勢するもの。

三 低能白痴を隔絶するもの。

四 梅毒並に肺結核の登録。

五 父たる者に醫的奉仕よりの免除を與へ大家族を獎勵する事。

六 母並に寡婦の扶助科。

七 アルコール並に麻醉劑の監督。

第六節 困難の諸問題。

一 現今の仁慈なる法令に由り不適者を保護する事は一層多くの不適者を生みはしないか。

二、児童労働法は大家族を衰靡なしはしないか。

三、大家族は望ましきものなるか。

四、營養教育共に不完全なる多數の児童のあるよりは、兩者行届きたる小數の児童のある方がよくはないか。

五 一家族一人の児童はハンデカップに困むか。

六 新時代は、大々一層下級民より徴出する様に

成のは、不運の事なるか。

斯くて右 Burnes 氏の右舉三十箇條にて充分な

りや否やといふにその中には何處にも子^〇供^〇の個^〇性^〇といふ問題が説かれてない。今日、動もすれば米國の幼稚園の非難せらるゝ點はこの個性尊長が足りないからである。これはフレーベル流の統一表象主義を學ぶために形式に流れるのである、そこで今個性に就いて少しく述べやう。

昔ガレン氏は人には四通の稟賦があるといつた。即ち多血質、神經質、粘液質、膽汁質である。私は『新教育の主張と生命』といふ拙著の中にホルウイツヒ氏の説を引いて面白く説明して置いた。但し一船に信せられてるのはグンド氏の説で檜崎氏の書中にある。ところでスタンレーホール氏は又作年の九月の號の Pedagogical Review 中に近世兒童心理學の概略を書かれたが遙に新らしい意見もある。

第一には氣質を二大別にした、

一 活動性——積極的

二 受動性——消極的

但し、かくの如くいふと、或は丁度男女の性の區別に當ると思ふ人もあらうが、それは必ずしもそうで無い。活動性の子供は首領性に富み、受動性の子供は附隨性に満足する。活動性の小供は怒り易く、受動性の小供は恐れ易い。換言すれば前者は物をなすことを好み、後者はするよりも知ることが好きである。又前者は、周圍の事物並に人間界の事を想ふ通りにしたがるのである。後者は周圍の事情に適應せんとする性がある。これが少しく病的に陥れば、前者は残忍となり、後者は自から苦しむ人となり、又人の犠牲となる傾がある。世間では怒る怖れるといふ情は悪い様に思ふて居るが却つてそれが人生文明の基となるのである。即ち怖れるから科學も發達し發明もする。怒るから進歩改良を促すやうになる。靈魂不滅も全く怖れるからである。近頃喧しいサヂスチック *Sadistic* とマソキスチック *Masochistic* との二語はこれに相當する。

子供は生れるからこの二つの性があるからこれを知つて取扱はねばならぬ。米國の幼稚園では子供を胡蝶が飛ぶやうに又たんぼの花の様に美しくひよこの様に一の憐なものたらしめんとする、然しこれは男にとつて不適當である。騒しいとか喧嘩しては悪いとかとやかましくいふが誤りである。この點が改良されねば、幼稚園は實はまゝごとである。

第二には人を潛勢力より見て分けた。即ち困難に望んで潛勢力を多く出す人と出せない人とがある。これは祖先より勢力を蓄積されて居ることの多少に由るので例へば火事の際重いものを持つ事ありこれは潛勢力を出したのである。

第三は主我的と愛他的の區分で、前者は自己中心、後者は他人中心張我と沒我とにあたる。キリスト教は沒我を主とする、凡て従來の道德はそれである。

第四、子供の三四年の時に於て、一番尊敬する

のは父である所が、子供によりて何時迄も父を尊敬するのと反つて反く人とがある。

第五、世の中は埋め合せといふ事が行はれて居る。これを知つて居れば子供に良い悪いはなくなる。それをコンベンション即ち代價の律といふ。例へば前カイゼルの左手がきかない事はやがて右手が人一倍の力をもつて居る所以で、又昔ギリシアのデモスセネスは叱りであつたが海岸で勉強して古今獨歩の雄辯家となつた。音楽家ベトーベンも耳の遠い人であつたのがこれも有名なる大音楽家と言はれるやうになつた。ソクラテスも醜男子であつたが最も賢い人となつた。かくの如く人は完全を望んで以て不完全を辨するやうになる即ち埋合法のあることを知るべきである。

第六、しかし眞の良い子は平均を持って居る者であらう。佛國のテーム氏は曰く「健康は凡ての健康の調和したものである」と

以上の六ヶ條を考へて教育するとよろしい。こ

れは James も Friend もいふてあるが、之れを一纏めにして六ヶ條を合せて居るのはスタンレーホール氏であることを御紹介申す。

(文責在記者—神戸市楠幼稚園、木村りん)

○編輯室より

本誌も「幼児教育」と改題致しましてからもはや半歳以上を過ぎました。平和來の聲に皆々歡喜する他の二方面には改造と云ふ事も到る所に稱へられて居ります。我が幼児教育界も今後いよ／＼事多いこととございませう。本誌内容の今一層充實は兼々心掛けて居ります事でございますが、何分紙數に限りがありこれの實行に困難がございました。そこでいよ／＼秋期よりは一頁の字數を増加する事に致します。凡そ一頁について百字以上多く致しますから、今後は一層内容を豊富にする事が出来る事と喜んで居ります。

本誌は「夏休み號」と云ふ心持で内容もその積りで撰び紙數も幾分少く致しました。

秋には各地會員の皆様よりの休暇中の御經驗、御所感を御紹介出来れば幸に存じます。會員の皆様のお寄稿をお待ち申します。原稿締切は毎月十六日でございます。